

# 令和3年度行政評価（令和2年度実施分） について

令和3年（2021年）10月8日

宝塚市行政評価委員会

# 目次

1	総評	P 1
2	総合計画に掲げる「施策展開の方針」ごとの評価について	P 1～4
3	「施策展開の方針」ごとの評価	P 5～14
	付帯意見 今後の宝塚市の行政評価に対する問題提起について	P 15

## 令和3年度行政評価（令和2年度実施分）について

### 1 総評

宝塚市が外部評価を導入して10年目となった。今年度は第5次宝塚市総合計画後期基本計画における評価の最終年度であり、8分野（人権・同和、男女共同参画、観光、商業・サービス業・工業、農業、雇用・勤労者福祉、消費生活、文化・国際交流）の施策について、「施策展開の方針」ごとに外部評価を行った。

また、評価に関連する施設として、市立文化芸術センター、市立手塚治虫記念館の視察を行った。運営目的や事業内容、施設設備について担当者から説明を受け、理解を深めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症が拡大する中での開催となったため、リモート形式を取り入れて実施した。

今年度の外部評価に対する市の対応には以下の問題があり、評価の内容が適切に活用されるのか疑問が残る。施策評価は最低限の適切さのみ認められ、事務事業評価は適切とは言い難いと判断する。

以下の点から良好とは言えないとする。

- ・評価対象施策及び事務事業の説明者として、室長級職員のみのおりとなっていること
- ・施策評価を担当する職員のおり数が少ない場合が複数回あったこと
- ・事務事業評価を担当する職員が委員会におりしない場合が複数回あったこと
- ・今年度当委員会から指摘したことに対する市の対応状況について、十分な説明を受ける機会がないこと

### 2 総合計画に掲げる「施策展開の方針」ごとの評価について

当委員会で行った「施策展開の方針」ごとの評価結果は別紙のとおりである。今年度も適切に内部評価が行われているかや、施策の推進・改善について、限られた時間の中で、活発に議論を行った。

#### (1) 推進・改善について

別紙の「施策展開の方針」ごとの評価結果については、今後の市の施策展開に活用していただきたい。また、以前に改善提言を行った施策についても、更なる施策の推進を図られたい。

#### (2) 内部評価について

内部評価における改善すべき点について、以下のとおり指摘する。

##### ① 施策評価表について

- ア 事務事業の内容をわかりやすく記載すること。
- イ 指標については、施策の主な取組や各事務事業に関するものを設定すること。指標だけでは施策の成果を十分に把握することが困難な場合は、進捗がわかるよう具体的に記載すること。

② 事務事業評価表について

ア 事業のねらいや成果、費用対効果について記載すること。

イ 指標については、事務事業の内容に関するものを適切に設定すること。

③ 評価者の意識向上とスキルアップについて

評価者の意識向上とスキルアップを目的に研修が実施されており、今年度はYouTubeを利用した動画での研修を実施した。しかし、昨年度に続き対面式の研修ではないこともあり、企画段階から研修の位置付け等に混乱があった。研修期間終了後の視聴回数から判断して、研修の対象としていた評価者が適切に受講したとは言えないこともあり、研修を実施したとすることに疑問がある。

(3) その他意見

施策全般に対する意見や強調したい意見として以下のとおり述べる。

- ① 社会の各方面でAIの活用が広がっており、本市においても、行政評価に関する職員の業務負担の軽減や、業務の進め方の変化につながると考えられるため、導入に向けての研究を課題としたい。
- ② 宝塚市ではすでにYouTubeで充実した番組が作成されており、今後より多くの施策で動画を用いた効果的な情報発信が行われることを期待したい。
- ③ 現在産学官連携の取組が広がっている。民間や大学と役割を分担し、地域活性化に向けた取組を推進していただきたい。
- ④ コロナ禍において、ICTやデジタルトランスフォーメーションの浸透はますます進んでいるため、電子市役所の実現に向けて、今後さらに取組を推進していただきたい。
- ⑤ 戦争に関する追悼行事の実施は、戦後から時間が経過していることを踏まえ、平和の意義や大切さを訴える施策としての必要性を検証し、関係者のイベントに対する意見も聴取したうえで、縮小を検討する必要がある。
- ⑥ 長谷牡丹園は、長期的な視点で今後どのように運営するのかを考える必要があり、外部からノウハウを取り入れることや、地域内での人材育成に取り組んでいく必要がある。
- ⑦ 観光噴水は、必要とするならば何に期待をしているのかロジックモデルを組み立てる必要があり、組み立てることができないのであれば廃止する必要がある。
- ⑧ 宝塚温泉の泉源地の対価は、現在よりも供給先が多かった時代から金額の見直しがされておらず、市の負担が大きくなっている。供給先からしかるべき対価を徴収すべきである。また、市立温泉利用施設は、現在の指定管理者制度での運営を見直す方向で検討を進める必要がある。
- ⑨ 歴史民俗資料館は、人件費や文化財の保護に費用がかかっているが、有効活用はされておらず、このような費用をかけて保存していく必要があるのか疑問があるため、大幅な見直しが必要である。

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会や経済、働き方や生活様式まで、最大の変革期が到来している中で、今後財政状況は悪化することが予想される。行政が

取り組む必要性を常に検証すると共に、複雑化する課題には組織横断的に対応することがより一層求められている。行政評価の強化に努めていただきたい。

#### (4) 実施日程

令和3年度の宝塚市行政評価委員会は、以下の日程で開催した。

会議	日程	内容
第1回委員会 〈対面方式〉	7月6日(火)	前年度評価に対する市の対応状況等の説明、施設見学、模擬評価
第2回委員会 〈リモート方式〉	7月20日(火)	「人権・同和」「男女共同参画」
第3回委員会 〈リモート方式〉	8月2日(月)	「商業・サービス業・工業」「消費生活」
第4回委員会 〈リモート方式〉	8月16日(月)	「農業」「雇用・勤労者福祉」
第5回委員会 〈リモート方式〉	8月30日(月)	「観光」「文化・国際交流」、次期計画における評価制度の検討状況についての説明
第6回委員会 〈対面方式〉	9月17日(金)	まとめ

#### (5) 評価者（行政評価委員会）

委員会の構成については、以下の通りである。

令和3年度宝塚市行政評価委員会 委員名簿

(任期：平成30年4月1日～令和4年3月31日)

氏名	選出区分	所属・役職等
窪田 好男	知識経験者	京都府立大学 学長特別補佐 公共政策学部教授
藤本 真里	知識経験者	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 主任研究員 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所環境計画研究部門 准教授
内田 真	知識経験者	行政評価 実務家 株式会社ジャパンインターナショナル 総合研究所主任研究員
松村 孝三	市内の公共的団体等の代表者	宝塚市自治会ネットワーク会議世話役
松尾 隆寛	市内の公共的団体等の代表者	一緒にプロジェクト(地域活動団体) 弁護士
照屋 友紀恵	公募による市民	市民

## (参考) 外部評価概要

### (1) 外部評価について

宝塚市は、第5次宝塚市総合計画において、行政評価について外部（市民や知識経験者等）の視点に基づく意見・提案・評価を取り入れることとし、外部評価の導入を決定した。これを受け、平成24年度に、市民や知識経験者等で組織する行政評価委員会を設置し、毎年度、外部評価を実施している。

### (2) 外部評価対象施策

平成28年度までの外部評価は、第5次宝塚市総合計画の前期基本計画について評価を実施し、平成29年度より、後期基本計画について評価を行っている。

後期基本計画では、38の施策分野、115の「施策展開の方針」のうち、35の施策分野、103の「施策展開の方針」を当委員会の評価対象としている（学校教育、社会教育、スポーツの3施策分野については、教育委員会事務執行等評価で評価）。

より丁寧に評価するため、平成30年度より4カ年をかけて評価対象となっている全ての施策を評価することとしている。

### (3) 評価方法

評価については、担当室・課が作成した施策評価表及び事務事業評価表によって施策や事務事業の概要を把握し、ヒアリングを行う方法により実施した。

## 3 「施策展開の方針」ごとの評価

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
(人権・同和)	1 同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図り、人権が尊重・保障される明るく住みよい地域社会の実現をめざします	内部評価について	<p>指標は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、目標値の改善が必要である。</p> <p>指標のいじめの認知件数が大幅に増加した理由を記載する必要がある。また、目標値が0となっているが、いじめ問題の現状を踏まえて、正しい目標値を設定する必要がある。</p> <p>総合評価でいじめ問題への対応策について記載する必要がある。</p> <p>総合評価を推進に向けて対応策を取るとしていることに合わせて、具体的な対応策を記載する必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>「人権啓発総務事業」について、市職員によるインターネット上の差別的表現についてのモニタリングは、費用対効果の面から、実施する必要性や方法の変更を検討する必要がある。</p> <p>いじめ問題の解決に向けては、事務事業数を増やし、より丁寧な働きかけを行いながら取り組んでいく必要がある。</p>
	2 生命の尊さ、平和の意義や大切さを訴えるなど、平和な社会の構築に向けた取組を推進します	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p>
		推進・改善について	<p>「非核平和都市推進事業」について、追悼行事の実施は、戦後から時間が経過していることを踏まえ、平和の意義や大切さを訴える施策としての必要性を検証し、関係者のイベントに対する意見も聴取したうえで、縮小を検討する必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〈男女共同参画〉	1 男女共同参画社会の実現をめざし、すべての施策について男女共同参画の視点に立って推進します	内部評価について	<p>目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。</p> <p>地域における男女共同参画推進リーダーの育成・活用について、指標の設定や記載をする必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>指標で「社会において男女の機会均等が図られていると思う市民の割合」とあるが、社会全体に関する施策は国の役割であるため、市では市内における男女の機会均等について取り組んではどうか。また、指標も社会から市内に変更してはどうか。</p> <p>第6次総合計画では、めざすまちの姿の都市経営に分類されるため、市の各部署が男女共同参画の視点に立った施策を行うよう、仕組みを構築する必要がある。</p> <p>男女共同参画推進リーダーが各部署で取組を推進できるよう、具体的な役割を示し、環境を整備する必要がある。</p>
	2 DVに関して、関係部や関係機関の連携を強化し、総合的な取組を進めます	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p>
		推進・改善について	<p>DV相談室への相談が必要に応じて容易にできることは望ましいが、コロナ禍でDV相談の件数が増加していることを踏まえ、相談が増加している原因を把握し、市の各部署と連携しながら、DVの原因を取り除く取組を行う必要がある。</p>
	3 政策・方針決定の場への女性の参画拡大のための取組を進めます	内部評価について	<p>指標は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、目標値の改善が必要である。</p> <p>審議会等の委員に占める女性の割合の目標を、40%から60%としている理由を記載する必要がある。</p> <p>審議会等の委員に占める女性の割合の目標を達成できていない現状から、目標値が正しいのか検討する必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>審議会などの委員の選任については、男女共同参画推進リーダーが性別構成に配慮しているが、委員に占める女性の割合の目標値を達成できていないのが現状であるため、リーダーによる方法が適切か検討し、目標値達成のための取組を強化する必要がある。</p> <p>委員の選任におけるクォータ制の実施においては、委員の能力が軽視されることがないように配慮する必要がある。</p>



施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
(男女共同参画)	4 女性の労働環境の整備・充実や雇用・就業、起業などの支援に取り組みます	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>「男女共同参画センター管理運営事業（再掲）」について、男女共同参画センターでは充実したセミナーが行われているが、同じ規模での取組を行っていない自治体は多くみられるため、宝塚市での事業の必要性を説明するために、他市と比較して優れている点や、事業の成果について記載する必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>「男女共同参画センター管理運営事業（再掲）」について、ニーズの分析把握のため、センターの未利用者からアンケートを実施してはどうか。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ観光	1 宝塚歌劇をはじめ、多様な観光資源を組み合わせ、まちの魅力を活します	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	<p>コロナ禍で先行きが見通せない状況であっても、考えられる先行きのパターンは限られているため、そのパターンに応じた対応策を検討しておく必要がある。</p> <p>「フラワー都市交流事業」について、市民や事業者は交流するだけではなく、企画の段階から参画できるようにしてはどうか。</p> <p>「宝塚魅力体験事業」について、この事業は市民が知らなかった宝塚の魅力を発見し、それらを掛け合わせて何かを生み出すことが目的だが、魅力を体験することに留まっているのが現状であるため、事業を見直す必要がある。</p>
	2 観光資源の活性化を図り、まちの魅力を高めます	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>「観光施設維持管理事業」について、位置づけが観光として曖昧であるため見直す必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>手塚治虫記念館は、館内だけでなく屋外を使った集客への取組も行い、文化芸術センターや文化創造館をリードしていく必要がある。</p> <p>手塚治虫記念館では他の漫画家も含めた漫画文化全体を取り上げるなどをして、集客に向けた工夫をさらに行う必要がある。また、手塚作品にオンタイムで触れてきた人は高齢化しており、記念館に足を運ぶことは難しいため、今後はアニメのクリエイターや漫画家をターゲットにする取組を行ってはどうか。</p> <p>観光噴水について、必要であれば何を期待しているのかロジックモデルを組み立てる必要があり、組み立てが難しいのであれば廃止する必要がある。</p> <p>温泉の泉源地の管理については、供給先からしかるべき対価を徴収する必要がある。</p>
	3 国内外からの観光客に優しいまちづくりを推進します	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>この細施策のタイトルである「国内外からの観光客に優しいまちづくりを推進」に関する記載が評価表にはほとんど見られないため、記載する必要がある。</p>
		推進・改善について	<p>「海外誘客事業」について、観光案内の多言語表記は、スマートフォンでの翻訳アプリを使用すれば複数の言語に対応できるため、必要性を検討する必要がある。</p> <p>国外からの観光客に優しいまちづくりに関する施策を実感することが現状ではできないため、今後の外国人観光客数の増加に向けて取組を強化していく必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ商業・サービス業・工業	1 起業家、やる気のある事業者に対する支援を強化します	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。 指標の「起業相談、指導を受けた人のうち起業した事業者数」について、令和2年度は31人が起業したとなっているが、評価表の記載内容では、31人がどのセミナーや講座等を利用した後に起業したのかわかりにくいため、表現を統一し、わかりやすく記載する必要がある。
		推進・改善について	施策の有効性をより正確に理解するには、起業した人が増加した理由や、起業数が多い業種、起業後の継続率について調査し把握する必要がある。
	2 商店街の活性化を図ります	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	「商工振興事業（再掲）」について、市民への住宅リフォーム補助金の交付が、商工の振興や、商店街の活性化に繋がっているとは言えず、施策評価表にある「Ⅲ施策展開の方針（細施策）に係る事務事業の評価」の事業の概要に記載されることは適切でないため、事務事業の細分化や、事業の概要の記載内容の変更が必要である。 市民が特定の飲食店を支援できるよう、募金制度を創設してはどうか。
	3 地場商工業の活性化を図ります	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	「新型コロナウイルス感染症対策市内事業者支援事業」について、成果指標の目標値と実績値に乖離があることも踏まえ、事業の効果や支援方法についての検証が必要である。 「宝塚ブランド発信事業（再掲）」について、情報発信をさらに強化するため、YouTube等動画共有サイトを用いて行ってはどうか。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〈商業・サービス業・工業〉	4 地域資源を生かして宝塚ブランドの創造・発信に取り組みます	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	宝塚ブランドの創造・発信について、情報発信自体は民間に任せ、市は地域資源を発掘するための研究や、研究をしようとする人への支援に注力してはどうか。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〈農業〉	1 農産物の生産量増加と消費拡大を図ります	内部評価について	目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 農産物の生産量増加と消費拡大に関する指標を設定する必要がある。 宝塚ブランドの育成に関する指標を設定する必要がある。
		推進・改善について	令和2年度は9名の農業サポーターのうち1名が新規就農者となっており、今後より多くの方が就農者となってもらえるよう工夫をしてはどうか。 宝塚ブランドに関する現在の取組は、ダリアや植木等の産業を支援することが主となっているが、今後も支援を継続していくのか、商品開発等の新規事業に着手するのか、方針を見定める必要がある。 西谷夢市場は農産物の販売だけでなく、人が集えるような場所となるよう工夫してはどうか。
	2 花き・植木産業の振興を図ります	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	長谷牡丹園は、長期的な視点で今後どのように運営するのかを考える必要がある。外部からノウハウを取り入れることや、地域内での人材育成に取り組んでいく必要がある。 長谷牡丹園とすみれ墓苑が連携し、柔軟な発想で、来園者や利用者が増えるための取組を行ってはどうか。
	3 市民が身近に農業に触れることができる仕組みづくりを推進します	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	市民農園は、市民が身近に農産物を育てながら自然と触れ合う機会を提供するという目的だけでなく、景観の面にも配慮し、宝塚の景観に良い影響を与えていくという発想でも事業を進めていただきたい。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
(雇用・勤労者福祉)	1 若年者の就労を支援します	内部評価について	<p>目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 宝塚市内で就職した人数や、マッチングに成功した件数を指標に設定してはどうか。</p>
		推進・改善について	<p>求職や求人に関する手続きは、利便性を高めるため、パソコンやスマートフォンで行えるよう、国と連携しながら仕組みを作っていく必要がある。 若者ごと相談広場について、指標の進路決定者数が目標値に届かなかった理由や、今後の事業の進め方について検証を行う必要がある。</p>
	2 高齢者の就業機会の拡充に努めます	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p>
		推進・改善について	<p>第5次総合計画開始時の高齢者の就労には福祉的な要素が含まれていたが、現在は退職前と変わらず働きたい人や、賃金が良い職を探す人がおり、状況が変化している。高齢者が働く企業もある中、シルバー人材センターが今後どうあるべきか検討すると共に、センターは宝塚市の高齢者が働きたいと思う仕事を用意していく必要がある。</p>
	3 働く意欲を持つすべての人の雇用の促進と就労環境の改善に努めます	内部評価について	<p>指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。</p>
		推進・改善について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル化の必要性が言われている中、就労の状況も変化しているため、その変化を的確に捉え、市からの支援もより良い方法や内容に変化させていく必要がある。 障害(がい)のある人や在住外国人等も含め、様々な人の就労を確保するためには、マッチングが重要であるため、外部の専門的なノウハウを取り入れることも検討し、マッチングを上手く行うことができるようにする必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
(消費生活)	1 市民力を生かし「豊かな消費生活」や「自立した消費者」をめざした消費者教育や啓発を推進します	内部評価について	目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 消費者サポートすみれ隊について、何人に就いてもらうか、どのような活動をしてもらうか等を指標に設定する必要がある。
		推進・改善について	エシカル消費の情報発信・啓発については、自治体間でも協力しながら、動画を用いた方法を検討してはどうか。 「消費者教育・啓発事業」について、高齢者に対して啓発を行うことが多く、紙の使用量が増えることは理解できるが、紙媒体での啓発でどれぐらいの効果があるのか検証すると共に、紙の使用については見直す視点を持つ必要がある。
	2 消費生活に関する相談の充実を図ります	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	市民からの相談業務について、定型的に聞くことが可能なものや、相談がどういった内容なのか整理することについては、A Iを導入してはどうか。
	3 消費者団体や関係機関などと連携し、高齢者などの「消費生活の安全安心」を支える取組を推進します	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	市民の身近な相談窓口として、自治体単位での消費生活センターが役割を担うことは理解できるが、相談内容の複雑化等で負担が大きくなっていることを踏まえ、県や国にも担える業務は市では行わず、市ならではの役割を追究しながら業務に取り組んでいく必要がある。 現在高齢者ではない市民もいずれ高齢者となることを踏まえ、スマートフォンや動画を用いた啓発を行っていく必要がある。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ文化・国際交流	1 宝塚市文化財団や文化団体と連携し、総合的に文化施策を展開します	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。
		推進・改善について	文化芸術センターについて、名称からはセンターの目的や活動内容が想像しにくいところがあるため、利用者が馴染みやすい愛称を作成してはどうか。 文化芸術センターは、既に専門家には注目されている施設だが、一般市民に浸透しているとはまだ言えない状況であるため、広くセンターが知れ渡るように情報発信に取り組んでいく必要がある。
	2 宝塚市国際交流協会と連携し、市民主体の国際交流活動を支援するとともに、多文化共生の地域づくりを進めます	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であり、各選択肢の判断も妥当である。 「手塚治虫記念館管理運営事業（再掲）」は、多文化共生のまちづくりを施策展開するこの項目に含めることが適切かどうか検討する必要がある。
		推進・改善について	西宮市の県立芸術文化センターで活動されている外国人の方々や宝塚市の公民館等でも活動されていることを活かし、市立文化芸術センターでも活動いただけるようにしてはどうか。
	3 市内に多く残る文化遺産の保全継承と活用に努めます	内部評価について	指標、目標値の設定は適切であるが、各選択肢の判断については以下の通り指摘する。 指標である歴史民俗資料館入館者は減少しており、集約化など抜本的な取組が必要であるため、事務事業構成の適正性や総合評価は「推進に向けて対応策をとる」とする必要がある。
		推進・改善について	市内にある文化遺産を残す必要があることには同意するが、歴史民俗資料館の入館者数が減少している中、人件費や文化財の保護に費用がかかっている。このような費用をかけて保存していく必要があるのか、費用対効果の面で疑問があるため、資料館の集約化等抜本的な取組を行うなど、有効活用を図っていく必要がある。 歴史民族資料館での取組は、集客のためのものだけではなく、積極的な調査研究など、価値を深める取組を行っていく必要がある。 歴史民族資料館について、来館の予約制を導入してはどうか。



## 付帯意見 今後の宝塚市の行政評価に対する問題提起について

総評でも記載した通り、今年度は第5次宝塚市総合計画後期基本計画における評価の最終年度であった。来年度から第6次宝塚市総合計画での評価が開始されるが、来年度以降は、内部評価及びPDCAサイクルの強化のために、当委員会を廃止する方針であることが市から説明があった。

当委員会を廃止し、これまでの外部評価を継続しないことは行政評価に重大な機能低下をもたらすと考えられる。また、これまで、今後の外部評価を含む行政評価の在り方について意見を求められ応えてきたことから極めて遺憾である。市が現在検討中としている次期評価制度について説明を受けたが、それには以下の問題点があると考えるので、答申の付帯意見として指摘しておく。

当委員会が考える問題点は以下の通りである。

- ① 本来であれば、次の仕組みが構築されてから今の制度を廃止するべきである。説明があった次期評価制度は検討中とのことであったが、具体的内容の乏しいものであった。評価表をどのように改善するのか具体性がない。また、施策と事務事業の評価可能性が低いという現在の欠点を無視し対応していない。数年前から取り組んでいたにもかかわらず、現時点でこの進行状況であるのは遅く問題である。この状況では制度の構築が間に合わず、来年度評価に影響を及ぼすことが懸念される。
- ② 当委員会は行政評価制度そのものの適切さについてもチェックを行い、提言を行ってきた。数年前からは、正式な諮問ではないものの、次期評価制度の構築に向けた提言も求められたため提言を行ってきたが、全く活かされていない。
- ③ 自己評価である内部評価を行うことは当然の事であり、その内部評価が適正かつ客観的であるかについて外部評価を実施している。PDCAサイクルの確立のために内部評価に注力するという説明は合理性を欠いている。
- ④ 今後は当委員会を廃止し、総合戦略有識者会議と総合計画審議会による外部評価を検討しているとのことだが、総合戦略有識者会議と総合計画審議会は、評価結果を利用する機関であり、内部評価制度の質の保証や、個別の評価の透明性及び客観性を担保するための外部評価を実施することは、構成する委員や審議に使える時間の観点から不可能である。

当委員会としては、行政評価制度とその運用の質保証及び客観性担保の機能を担うこれまで通りの外部評価が継続されなければ、宝塚市の行政評価制度は大幅に後退し、説明責任が適切に果たされないと考える。10年間にわたって外部評価を実施してきたことを無駄にせず、適切な行政評価制度の設計と運用が行われることを強く望む。